

<今回>332回目 2023年8月28日(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p467、第5章九州王朝の領域と消滅 より

<前回>331回目(23-6-26)出席者8名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-6-26)のまとめ(清水)

2) 回覧、赤湊神社の縁起(服部氏金曜 web の紹介)

A 報告 高山氏が元気な姿を見せてくれた。清水の白内障の手術が7月に組み込まれたので、7月2回の読書会は中止とする。次回は8月7日(月曜日)から行きたい。これも中止して、8月28日に延期した。

B 資料2 金曜 web に関西の服部氏が豊岡に近い、赤湊神社縁起の中の常色元年年号の存在を紹介してくれた。服部氏以下5名の方が宮司を訪ねて、九州年号の1つ常色年号の存在を確認した。京都教育委員会の読み下し文を利用して内容の紹介をした。資料は1. 赤湊社縁起、木箱入り、巻物、虫食い激しく、ほどくことが出来ない状態。2. 赤湊宮、神縁寺の写本。作成日は天長5年(828年)。3. 一宮表米大明神御縁起。天長5年の原本を元禄8年(1695)乙亥に写本したものを、**昭和19年**に改写したとある。4. 赤湊表米縁起、永禄3年(1560)庚申6月6日とある。5. 赤湊神社縁起校本押印下、天長5年戊申に校合された原本を写本したものとされるが写本日の記載はない。これを教育委員会が読み下したものを元に紹介した。内容は孝徳天皇の子の有馬皇子の弟に表米皇子(日本書紀には記載がない)が豊岡市付近の赤湊神社に居られ新羅の軍が日本海に來たとの通報を受け、誰を大将にしたらよいかと図ると表米皇子が有馬の皇子の乱に巻き込まれて、配流されていたが、無実であると、大将によいと推薦された。そこで旗指物や軍隊を与え、率いて、海岸に出て迎え撃って、勝利したと書かれていた。海が荒れた時にアワビの大軍が加勢して、神秘談で終わっている。内容的には日本書紀の影響もあり、倭国資料として、常色年号を公に出せると服部氏が図ったが、内容に矛盾もあり、入手の経緯もあり、一筋縄ではいかないと古賀氏からも発表が終わってから説明があった。

が

C 読書 p459 三国遺事の描く金提上の悲話 から

- (1) 三国遺事の伝える堤上説話を全文読む。金提上と記す。那密王即位36年(庚寅390)倭国の使いが百済の罪を告げて、人質を要求、美海を出す。10歳で30年とどめられた。また納禰王3年(壬子419)高句麗にも兄、宝海を質に出す。
- (2) 内容は三国史記と大同小異だが、史書としては年数も名前も異なる。高句麗の長寿王は理路が通ずるが、倭王は無慈悲、理不尽と記されるのは同じ。民衆の倭国に対する感情が高句麗より、よいものではないことがにじみ出ている。
- (3) 戦後日本古代史の出発点になった津田左右吉氏は日本古典の研究の中で、半島の説話が単に中国を手本として、妄信して、独自性がないことを軽蔑していたが、古田氏はこの説話こそ、悲痛なものはないとして、尊重する気がないとするのは、遺憾であると大筆している。
- (4) 国際的にはこの説話の半日で逃れる所を以って、この時期、倭国の都は博多湾岸にあることは定説になっているという。

28月28日(月)14時から17時 601会議室

8月28日(月)14時から17時 601会議室